

いわいさきかいがん  
【5】岩井崎海岸

1.概要

岩井崎海岸は、三陸復興国立公園内に位置する景勝地の一つであり、崖・岩礁性海岸で景勝「潮吹き岩」の他、「岩井崎石灰岩化石」が見られる。

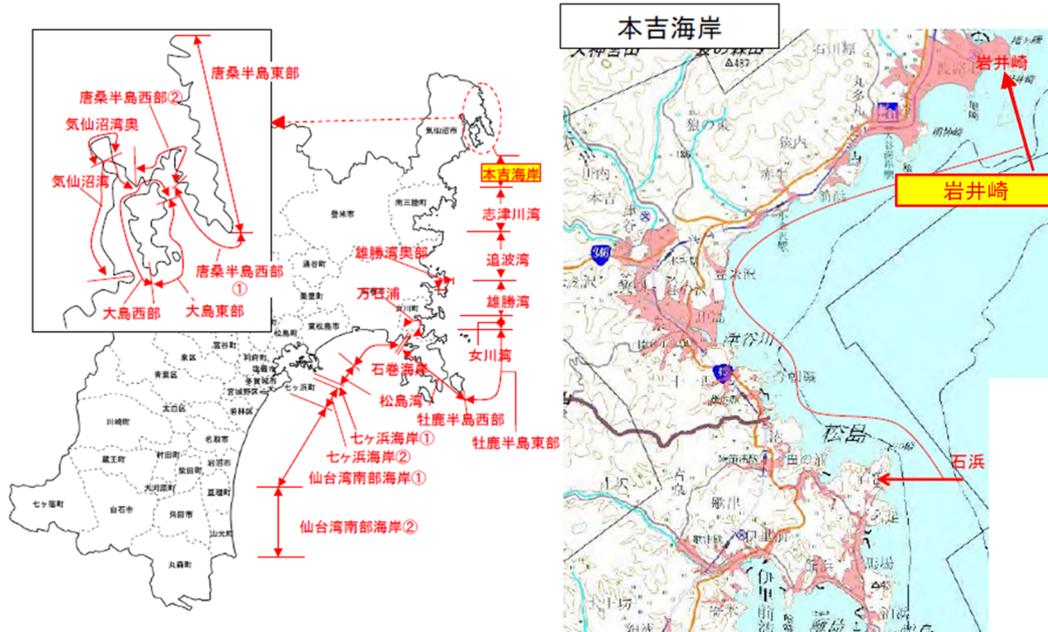


図 4-5-1 位置図【岩井崎海岸】

2.震災後の状況

(1) 被災前後の状況

岩井崎海岸は、地震による津波の影響により護岸の沈下や防護柵の破損等の被害を受けた。



写真 4-5-1 震災後の岩井崎海岸の状況【岩井崎海岸】

(2) 被災状況



図 4-5-2 被災状況【岩井崎海岸】

### 3.復旧計画

#### (1) 復旧方針

- ・ 津波・高潮に対する安全性を確保するため、国が策定した基準に基づき「頻度の高い津波（L1 津波）」に対応する天端高 T.P.+9.8m の堤防の整備を行う。
- ・ 施設整備に際しては、周辺景観に配慮する。
- ・ 潮干狩り等の利用に配慮する。

#### (2) 工事概要

- ・ 復旧延長 L=330m
- ・ 築堤盛土工 L=7,800m
- ・ 法覆護岸工 L=3,500m

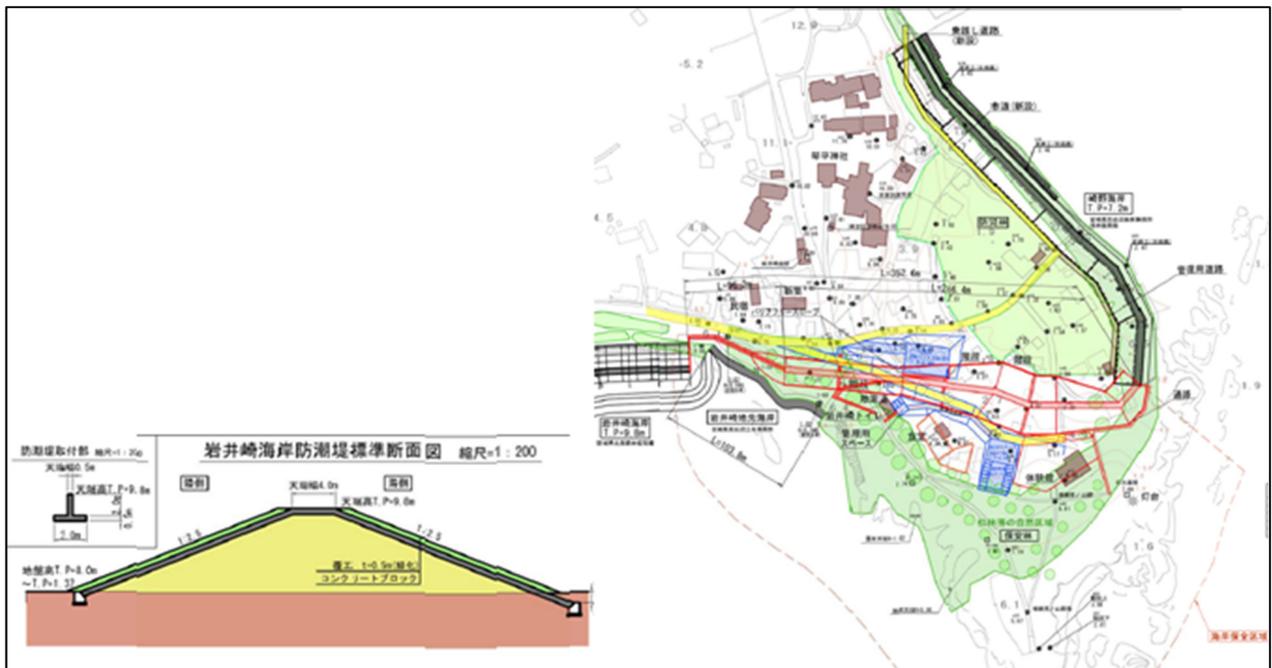


図 4-5-3 復旧計画平面図及び標準断面図【岩井崎海岸】

4.環境現況調査

(1) 調査実施状況

表 4-5-1 調査時期一覧【岩井崎海岸】

項目	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
植物	秋	春・夏	春・夏	夏・秋	-	-	-	-

(2) 調査結果（海岸及びその周辺で確認された種及び重要種生息・生育状況）

調査実施期間中における、各項目の確認種数を以下に示す。

表 4-5-2 調査結果概要【岩井崎海岸】

項目	調査結果概要
植物	平成 25 年度から平成 28 年度までの調査で合計 278 種が確認された。そのうち重要種は 11 種が確認された。



ウミミドリ



オオシバナ



ハマサジ

写真 4-5-2 確認された主な植物【岩井崎海岸】

5.工事実施上の課題とアドバイザーからの意見

(1) 想定される事業による影響

- ・直接改変による植物重要種の消失

(2) 環境配慮の実施

1) 希少植物種の保全（実施時期：工事前）

工事による影響により消失が懸念されたウミミドリ、オオシバナ、ハマサジの3種について、保全対策として個体の移植を行った。



ウミミドリ



オオシバナ



ハマサジ

写真 4-5-3 移植した希少植物種【岩井崎海岸】

【環境アドバイザーからの意見】

意見①	・ウミミドリの移植の際は、基盤の土や混植する芝と一緒に移植を行い、移植後に潮の干満等で流失しないように留意すること。
意見②	・オオシバナについては、改変区域に含まれる個体をすべて津谷川に移植してよいと思われる。非改変区域のものはそのままにしておくこと。
意見③	・ハマサジについては、既存株はそのまま残置することとし、秋に採取した種を、同種が生育する別の箇所や生育適地と考えられる箇所に播種することでよい。また、ハマサジは他の雑草に被圧される可能性があるため、種を蒔く際に少し耕して、雑草を除去してから実施して欲しい。

【ウミミドリ】

- ・自生地近傍の非改変区域に移植を行った。また、移植後の枯死や波による流亡のリスク分散を目的として、一部を津谷川の右岸湿地（外尾川下流部）に移植した。
- ・移植と併せて、予め採取した種子の播種を行った。
- ・移植は人力で行い、移植群落の植栽基盤ごと掘り取り、移植地への植え付け作業を行った。自生地近傍の移植地（海岸）への移植の際は、潮の干満や波による流出を防ぐため、鉄ピンで植栽基盤と地面を固定した。（意見①への対応）
- ・移植作業は平成 30 年 11 月（冬季）に実施した。



移植作業  
(岩井崎海岸)



移植作業状況  
(津谷川右岸湿地)



播種作業状況  
(津谷川右岸湿地)

写真 4-5-4 ウミミドリの移植状況【岩井崎海岸】

【オオシバナ】

- ・ 自生箇所近傍（海岸）に移植適地がなかったため、改変区域内の対象株全株を津谷川の右岸湿地に移植した。（意見②への対応）
- ・ 移植は人力で行い、移植群落の植栽基盤ごと掘り上げ、移植地への植え付け作業を行った。
- ・ 移植作業は平成 30 年 11 月（冬季）に実施した。



ウミミドリ・オオシバナ移植地  
(津谷川右岸湿地)



移植作業状況  
(津谷川右岸湿地)



オオシバナ移植状況  
(津谷川右岸湿地)

写真 4-5-5 オオシバナの移植状況【岩井崎海岸】

【ハマサジ】

- ・ 本種は越年草であることから、移植後に枯死するリスクを避けるため、自生個体の移植は行わず、種子を採取して自生地近傍 4 箇所に播種を行った。（意見③への対応）
- ・ 播種用の種子は秋に自生株より採取した。播種地は播種前に雑草の除去や整地等を行った。
- ・ 本種は周囲の雑草の被圧に弱いことから、移植後のモニタリング時に適宜除草を行った。
- ・ 作業は平成 30 年 11 月（冬季）に実施した。



結実したハマサジ



播種作業状況



ハマサジ移植地

写真 4-5-6 ハマサジの移植状況【岩井崎海岸】

## 6.保全対策後のモニタリング結果

### (1) ウミミドリ、オオシバナ、ハマサジ

移植した3種ともに、その後のモニタリング調査で継続して生育及び開花・結実が確認されている。



ウミミドリ（岩井崎海岸）



ハマサジ（岩井崎海岸）



ウミミドリ（津谷川右岸湿地）



オオシバナ（津谷川右岸湿地）

写真 4-5-7 移植先で確認された希少植物種【岩井崎海岸】

## 7.まとめ

### (1) 保全対策の要約

#### 【希少植物種の保全】

- ・ 工事により消失が懸念されたウミミドリ、オオシバナ、ハマサジの3種について、保全対策として移植を行った。
- ・ ウミミドリ及びオオシバナについては、自生地近傍での移植適地の不在や移植後の枯死等のリスク分散のため、一部を津谷川右岸の湿地に移植した。
- ・ ハマサジについては、越年草であることから移植が困難であり、種子を採取し、自生地近傍に播種を行った。
- ・ 移植後、いずれの種においても生育及び開花・結実が確認された。

### (2) 今後の課題

- ・ 岩井崎海岸及び津谷川右岸湿地のウミミドリ及びオオシバナについては、周辺工事も終了していることから、今後、人為的な生育環境の変化はないものと考えられる。
- ・ ハマサジについては、今後、播種地での除草等の維持管理を行わなかった場合、周囲の雑草に被圧され生育が阻害される可能性が考えられる。周辺に点在する自生個体も含め、今後も生育状況に留意して、必要に応じて除草等の維持管理を行っていくことが望まれる。